



【本号のトピックス】

「高齢期における口腔機能低下症」の概念と診断基準について／
第23回日本歯科医学会総会報告／支部だより／国際学会(ECG)報告／
委員会だより(在宅歯科診療等検討, 社会保険)／
平成28年度長寿科学研究開発事業のお知らせ／学会だより

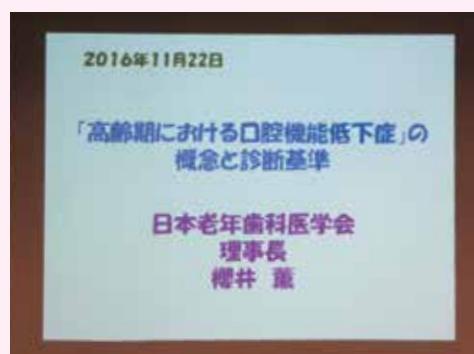
「高齢期における口腔機能低下症」の概念と診断基準の要旨

水口 俊介
学術委員会委員長

2013 年 10 月 26, 27 日に「高齢者の口腔機能低下を病名にできるか」というテーマで本学会がワークショップを開催したことを覚えておられる方も多いと思います。超高齢社会が進展し、要支援・要介護の方の診療が増加するにつれて、う蝕、歯周病や歯の欠損といった従来の疾患イメージには合わない方が多くなったとしばしば感じられることもあると思います。このような場合、なんらかの既存病名にて処置に当たるのですが、少し腑に落ちないと感じる方もいらっしゃると思います。つまり「高齢期の口腔機能低下」に関する検討は、歯周病、歯の欠損といった既存病名を付与することは適切でないが、口腔機能の低下への介入を要する患者に対して、的確な歯科介入を実施するための病名を提案することを目的とした活動でした。ワークショップでは、2 日間にわたり病名を付与するために解決すべき問題点、エビデンス構築のための方略、検査法、診断基準、治療法、再評価法について広範囲かつ濃密な議論が行われました。ここでの議論が今回の見解論文の基礎になっていることはいうまでもありません。その後も学会内の特任委員会で作業は続いておりました。

2014 年 3 月、国立長寿医療研究センターの研究班は、口腔の機能低下を経由して全身の機能低下が進行する過程の概念を示し、機能低下のごく初期に「オーラルフレイル」という状態があることを初めて発表しました。日本歯科医師会は翌年の3月に開催された「健康寿命延伸のための歯科医療・口腔保健 世界会議 2015」のなかで「オーラルフレイル」を大きく取り上げており、現在では「オーラルフレイル」を「8020」に続くオーラルヘルスプロモーションの標語にするべく活動しております。

まだ具体的な定義は示されていないにもかかわらず「オーラルフレイル」が有名になってしまったため、わ



11 月 22 日の報道発表に用いたスライド

れわれがこれまで議論してきた「口腔機能低下」との違いは何か、どのような位置づけにするべきかということが何度も激しく議論されました。その結果、見解論文の図に示したように、本会は「オーラルフレイル」はプロモーションに用い、地域保健事業や介護予防で対応可能な段階、「口腔機能低下」は病名候補として「症」を付けて歯科医師や歯科衛生士が対応すべき段階といたしました。そして「口腔機能低下症」を判定するための症状として7つの下位症状を挙げ、それらの基準を提示しました。またこの7項目のうち3項目を満足すれば「口腔機能低下症」といえるのではないかということを、藤田保健衛生大学で実施された学術委員会主導の研究をもとに提案させていただきました。

「口腔機能低下症」はこれで完全に固まったわけではありません。さらに多くのエビデンスが必要です。エビデンス創出のために初期値を提示する、というのが今回発表した2016年版の見解論文の立ち位置であり、エビデンス創出のための活動を学会は継続する所存です。会員の皆様も健康長寿社会の達成に参画し貢献することは、日本老年歯科医学会の使命であると強く意識していただきたいと思います。

「高齢期における口腔機能低下症」の概念と診断基準 —学会見解の報道発表—

総務担当常任理事 佐藤裕二

11月22日に東京歯科大学で標記の報道発表が行われました。朝日・読売を含む新聞・出版15社と企業14社から計49名と多くの参加がありました。櫻井理事長の「本会の概要と発表の経過」の説明に続いて、水口学術委員長から、学会誌31巻2号掲載の「学会見解論文2016」の内容が、スライドで、オーラルフレイル、口腔機能低下症、口腔機能障害の関係も含めてわかりやすく説明されました。多くの質問があり、7種類の検査体験コーナーは大盛況でした。論文は学会ホームページでも公開されています。



報道発表の様子

第23回日本歯科医学会総会報告

充実した3日間

10月21日（金）～23日（日）までの3日間、福岡国際会議場／福岡サンパレスにおいて4年に一度の表記学会が、「歯科医療 未来と夢」をメインテーマに初めて九州の地で盛大に開催されました（会頭：水田祥代先生・福岡歯科大学理事長）。初日の開会講演は、京都大学 iPS 細胞研究所所長・教授の山中伸弥先生（「iPS細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」）、東京理科大学特任副学長の向井千秋先生（「宇宙飛行から学んだこと—有人宇宙探査と歯科医学への期待—」）がご講演され、メイン会場のみならず中継会場にも立ち見が出るほどの盛況を呈しました。これに続く開会式は、九大フィルハーモニー・オーケストラの演奏を皮切りに、大変厳かな雰囲気の中かで進行しました。

学会は、講演、シンポジウム、国際シンポジウム、分科会プログラム、視聴覚セッション、ポスターセッション、テーブルクリニックなど大変多岐にわたり、併催行事として「日本デンタルショー 2016 福岡」も隣接するマリンメッセ福岡で開催され、多数の参加者が来場しました。登録者数は9,000名を超え各会場で活発なディスカッションが行われ、その熱気は夜の中州まで続く充実した3日間でした。（広報委員 北川 昇）



開会式の様子

分科会プログラム参加報告

大会2日目、10月22日の分科会プログラム・日本老年歯科医学会、日本歯科医療管理学会、日本歯科薬物療法学会、日本有病者歯科医療学会、日本口腔感染症学会の合同企画シンポジウム「高齢者歯科医療を支える3本の柱と2本の鎚（かすがい）」が開催されました。

シンポジウムは東京医科歯科大学 水口俊介先生・日本老年歯科医学会、獨協医科大学 今井 裕先生・日本有病者歯科医療学会の座長により、高齢者歯科医療の3本の柱として3名、2本の鎚として2名、計5名の演者の講演が行われました。3本の柱として基礎疾患をもつ高齢者に関する投与薬とその知識、地域での高齢者への病院歯科を中心とした対応と多職種地域連携、在宅歯科診療における噛める義歯の製作と調整法に関する講演が行われ、2本の鎚として大学歯科病院としての地域包括ケアシステムでの問題点、行政府からの高齢者歯科医療への実際のサポートと要望に関し講演が行われました。各講演終了後には主として地域連携に関する活発な討論が行われました。（広報委員 糸田昌隆）



シンポジウムの様子

支 部 だ よ り

群馬支部主催セミナー開催報告

群馬支部 鎌田政善

群馬支部では、支部発足の事業として2016年10月1日(土)にホテルメトロポリタン高崎において、群馬県歯科医師会共催で「第1回研修セミナー」を開催しました。講師は本学会の理事長である東京歯科大学老年歯科補綴学講座教授の櫻井 薫先生で、「フレイルに関連して一義歯の内容も含めて」というテーマでご講演いただきました。

参加者は、行政の方や看護師さん、介護福祉士さん、言語聴覚士さんなどの多職種の方を含めて66名でした。講演後の質疑応答も活発に行われ、有意義な講演であったとの話を多くの方々からいただくことができました。

研修セミナー終了後の懇話会では、村山群馬県歯科医師会会長をはじめとして、郡部の歯科医師会会長に多数出席していただき、群馬県の高齢者歯科医療の向上と充実について話し合うことができました。



会場の様子

岡山・鳥取・香川支部共催セミナー
「病院歯科介護研究会第19回総会・
学術講演会」開催される

岡山支部 澤田弘一

10月16日(日)、岡山市国際交流センターにおいて標記セミナーを開催しました(参加者100名)。

高橋紘士先生(高齢者住宅財団)から、地域住居生活を支えることによって食に貢献する歯科の役割について基調講演をいただきました。続いて、急性期病院と歯科医師会の連携例、ライフステージを通じた口腔ケアの実践講演をいただきました。午後のシンポジウムでは、歯科のある総合病院・院長、介護予防に携わっている歯科衛生士、地域で歯科と連携している社会福祉士および保健師から「先進地域での歯科の活躍とこれからの歯科へ期待すること」をお話しいただきました。その後、参加者とともに議論を深め、

高橋先生にご助言をいただき、当会での宣言をまとめました。

- 宣言① 施設完結型ではなく地域ぐるみで、多職種にも協力、連携を得よう努めます。
- 宣言② 国民に歯科の有益性を行動をもって、啓発・教育・提言します。
- 宣言③ 治療のみならず、治療終了後から生活を診ながら、生活に寄り添う活動(変化を発見し、つなぎ、見守り)を行います。
- 宣言④ 国民が求めているのは、人生(心)が豊か(幸せ)になることであり、そのためのツールとしての、口腔ケア(キュア、ケア、リハ)で貢献します。

愛媛支部共催セミナー
「第20回『口から食いたい』講演会」
開催報告

愛媛支部 高橋徳昭

2016年10月16日(日)、松前総合文化センターにて伊予歯科医師会主催によるセミナー(メインテーマは「口から食いたい」の原点に帰る)を開催しました。参加者は357名で、職種は看護職、介護職、歯科関係者が1/4ずつ、残りは多職種でした。

講師として、豊橋市ナースিংホーム「気の里」施設長 田中靖代先生、札幌市立大学看護学部 村松真澄先生、横浜市歯科開業 加藤武彦先生をお迎えし、それぞれにご講演いただき、最後に「口から食いたい」を支援するにはどうすればよいかについてディスカッションが催され、活発な質疑応答が行われました。

第20回の記念大会にふさわしいセミナーでした。



講師の方々を交えてのディスカッション

福岡支部共催セミナー「第12回福岡
摂食嚥下サポート研究会」開催報告

福岡支部 岩佐康行

福岡支部共催セミナーとして、2016年11月13日(日)にパピヨン24 ガスホールにて、「第12回福岡摂食嚥下

サポート研究会」を開催しました(参加者130名)。今年4月の熊本地震を受け、今回のテーマは「災害時の支援」としました。午前中の特別講演では、「摂食嚥下アプローチin地域リハー東日本大震災を経験して」と題し、高橋博達先生(浜松市リハビリテーション病院副院長)からご講演いただきました。また、午後のパネルディスカッション「災害時の摂食嚥下サポート」では、医師、管理栄養士、歯科医師、歯科衛生士の演者から熊本地震での支援活動のご経験と今後の課題についてお話をいただきました。各職種で着眼点が異なり、災害時においても多職種が連携して情報を共有することの重要性が認識できました。



午後のパネルディスカッションの様子

山梨・静岡支部共催セミナー開催報告

山梨支部 花形哲夫

第2回日本老年歯科医学会山梨・静岡支部合同研修会が、2016年12月4日(日)「かいてらす(山梨県地場産業センター)」において、テーマを「認知症と食」として開催されました。本研修会は、認知症に関する課題が社会的問題となっているなかで、「食支援」について歯科関係者だけでなく多職種の方々に学んでいただくことを目的としました。

第1部は、特別講演「疾患別対応 認知症高齢者の食支援」を演題として野原幹司先生(大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学教室准教授)よりご講演いただき、第2部は基調講演「認知症高齢者への多職種協働による包括的な食支援」を演題として山田律子先生(北海道医療大学看護福祉学部教授)よりご講演をいただきました。また、今回のシンポジウムは、テーマを「認知症への包括的関わり～新オレンジプランを見据えて～」として、座長:平野浩彦先生(東京都健康長寿医療センター歯科口腔外科部長)のもとで行いました。シンポジウムは永松正明先生(認知症サポート医・甲府市医師会認知症対策委員長)、小林由紀子先生(山梨県福祉保健部健康長寿推進課認知症・地域支援担当)、平野浩彦先生、花形哲夫から講演をさせていただき、米山武義先生(静岡支部長)からも指定発言をいただきました。講演・シンポジウムにおいては会場から多くのご質問・ご意見が出されて有意義な研修会でした。

参加者は約180名で、職種は医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士・薬剤師・OT・PT・ST・管理栄養士・介護支援専門員・MSW・施設関係者・教育関係者・介護士・認知症介護家族などでした。多くの方々が「認知症と食」について関心をもっていること、また認知症という課題に対しては、地域において包括的な多職種の連携・協働なくして適切な食支援をはじめとする対応ができないことを研修していただいたと確信しています。



会場全体風景

2016 Annual Congress of the European College of Gerodontology (ECG) に参加して

2016年6月にパリで開催された本大会は、1990年以来第27回目となりました。今回は【Access to Care】【Medical Issue in Oral Health】を主題とし、歯科のみならず様々な分野から、包括的な高齢者ケアの実現を目指した多職種連携強化の取り組みや研究成果が報告されました。演題数は口演発表24題・ポスター発表10題と小規模ではありましたが、その分アットホームな雰囲気の中、文化的背景や思考の違いが反映された、自由で活発な議論が印象的でした。

2017年は4月26～29日にマルタ共和国で開催され、櫻井 薫理事長が招待講演をされる予定です。(ECG大会HP:<https://www.um.edu.mt/events/obohll2017>)

国際渉外委員/ ECG Councillor 多田紗弥夏



委員会だより

在宅歯科診療等検討委員会

委員長 菅 武雄

在宅歯科診療等検討委員会からは2つの報告があります。1つは徳島大会において、テーブルクリニック「口腔咽頭吸引」を実施したこと。もう1つは日本歯科医師会からの依頼で「在宅歯科医療の基本的考え方2016」を作成し提出したことです。

「口腔咽頭吸引」に関しては、20年以上前から在宅医療の現場で歯科衛生士さんたちがコツコツと技術研鑽し、ケアの質を高める努力を継続してきた結果、歯科衛生士教本(教科書)に記載されるにいたった経緯があります。現場での実績も上げており、近隣医師会から「医師会の訪問看護師に技術指導を」と歯科衛生士の派遣を依頼されるまでになりました。学会当日は会場に入りきれないほどの参加者があり、歴史的な経緯を含め、吸引の考え方、アセスメント、安全管理、そして術式例の紹介などを行いました。今後は、基本手技の確立や研修システムの構築などの課題を解決していかなければなりません。

「基本的考え方」に関しては、現在の「歯科訪問診療の基本的考え方 2002」の改訂版としての位置付けです。名称も変更させてもらい「在宅歯科医療」としました。これは個別指導などの根拠になるものなので、今後10年間の使用に耐えうるものを目指しました。日本歯科医師会に提出したばかりで、修正がどの程度入るかは未定ですが、在宅歯科医療の基本として、周知していければと考えています。工夫した点は、注釈を多く入れ、具体例を示して理解を深めた点、今後、さらに注目されるであろうフレイルや口腔機能低下にも触れた点、往診と訪問診療の違いにも言及して地域医療との連携を図る手助けとした点などです。

今後とも在宅歯科診療等検討委員会は地道にコツコツ活動して参りたいと考えています。ご意見やご要望など、気軽にお伝えください。

社会保険委員会

委員長 菊谷 武

本委員会は、1. 歯科医療制度の問題点、2. 老年歯科診療のあり方、3. 社会保険制度に関する事項、4. 社会保険診療報酬請求に関する事項、5. 介護保険制度に関する事項、その他、理事会から諮問された事項やその他の歯科医療および社会保険に関する事項を審議することを責務として設置されています。

これに基づき、昨年度は、昨年度末に行われた医療保険改定へ向けて新規技術提案書を作成しました。具体的には、医療技術再評価提案書(保険既収載)において「摂食機能療法」「(歯冠修復)充填」を提案しました。後者は、日本歯科保存学会との共同提案でした。また、医療技術再評価提案書(保険未収載)において「舌圧検査」「運動障害性咀嚼障害に対する咀嚼機能検査」を提案しました。前者は、日本補綴歯科学会、日本顎口腔機能学会と、後者は日本口腔リハビリテーション学会との共同提案でした。また、選定療養導入提案において「デンチャーマーキング」を提案しました。これらに伴うヒアリングなどへの出席を行っています。結果、いくつかの項目で成果が上がっています。

また、日本歯科医学会主催のワークショップに委員が参加しました。テーマは、「歯科はいかにして新機能・新技術に取り組むか」であり、最初に、基調講演として「医薬品医療機器法の成立と医療機器行政の最近の動向」と題し、厚生労働省機部総一郎氏より講演を賜りました。続いて、特別講演として「より良い医療機器開発と普及のために」と題する講演を医療機器センターの日吉和彦氏より賜りました。その後、各出席者によるグループワークを行いました。

今年度および来年度の活動予定として、平成30年医療保険、介護保険同時改定に向けての取り組みを他の委員会、会員の皆様の意見を聞きながら、鋭意行って参ります。

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)平成28年度 長寿科学研究開発事業 認知症高齢者に対する歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究

研究代表者:平野浩彦(東京都健康長寿医療センター歯科口腔外科)

本研究開発の目的は、歯科診療を含む口腔管理および栄養ケアマネジメントに係わる職域(特に歯科医師、歯科衛生士など)が、認知症高齢者に対する歯科診療と適切な経口摂取支援が円滑に実施できるガイドラインを開発し、そのガイドラインを用いた診療・支援を普及させることです。また本研究開発実施の背景として、2015年1月に認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)が発表され、「認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて」との命題のもと、7つの柱が提示されました。この2つ目の柱として「認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供」

が掲げられ、そのなかで歯科医師の認知症対応力向上に関する研修実施が明文化されており、歯科医師には歯科診療などを通じ、口腔機能の管理を適切に行うことが求められています。その一方で、認知症高齢者に対する当該領域の標準化、およびそれに資する知見が不十分であり、認知症高齢者への歯科診療を含む口腔管理および栄養ケアマネジメントは困難となっています。本研究開発事業は、以上を打開する方策の一つになりうると考え、当学会ガイドライン委員会と連携して事業を進めています。

学会だより

第28回学術大会演題締切迫る —2017年1月31日(火) 正午まで—

第28回学術大会の演題登録締切日が近付いておりますので、お急ぎください。

詳細は大会ホームページでご確認をお願いします。



2016年度優秀奨励論文賞(ライオンアワード)の 候補者募集について

1. 受賞資格〔表彰制度規程第4条3〕
 - ・2016年1月～2016年12月に本会機関誌「老年歯科医学」[Gerodontology]に掲載された原著論文の筆頭著者であること。
 - ・当該論文掲載時において満50歳未満であり、且つ2017年3月31日において3年以上継続して本会会員である者。
2. 応募方法
自薦・他薦を問いません。他薦の場合、推薦者は本会会員に限ります。
3. 申請方法：学会ホームページで確認してください。

第4回歯科衛生士関連委員会セミナー 来年度は「統計 実技演習編」です！！

日時：2016年6月17日(土) 9:00～11:30 予定

会場：TKP ガーデンシティ 名古屋新幹線口

(名古屋駅 徒歩5分)

事前申込制

※統計ソフト「4Steps エクセル統計」を用いて演習します。

セミナーの詳細は、順次、学会ホームページに掲載します。

専門医合格者の紹介

内山 宙(東京歯科大学千葉病院)

山崎 裕(北海道大学大学院歯学研究科高齢者歯科学教室)

支部セミナーのご案内

★詳細は学会ホームページをご覧ください

・鹿児島支部共催セミナー

「第9回日本義歯ケア学会学術大会」

会期：2017年2月11日(土)～12日(日)

会場：鹿児島大学学習交流プラザ 学習交流ホール

主催：日本義歯ケア学会

・第5回日本老年歯科医学会岡山支部セミナー

「地域・在宅高齢者の『食べる楽しみ』を支援する」

会期：2017年2月12日(日) 9:30～16:00

会場：岡山大学歯学部棟4階

第一講義室および第1臨床実習室

主催：岡山県、岡山大学病院、岡山大学歯学部、
日本老年歯科医学会岡山支部

・千葉支部第1回公開研修セミナー

「高齢者の低栄養とは」

会期：2017年2月19日(日) 13:00～16:30

会場：千葉県歯科医師会館2階ホール

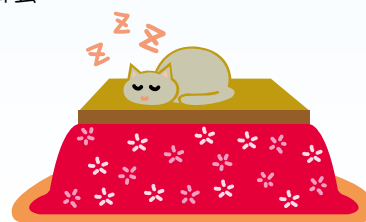
主催：日本老年歯科医学会千葉支部

・滋賀支部共催セミナー「第5回在宅歯科医療研修会」

会期：2017年3月12日(日) 13:00～16:30

会場：近江八幡市立総合医療センター

主催：湖東歯科医師会



編集後記

明けましておめでとうございます。謹んで新年のお祝辞を申し上げます。2017年第1号のNews Letter No.26をお届けいたします。

今号では昨年末に報道発表を行った「高齢期における口腔機能低下症」の概念と診断基準等々、日本老年歯科医学会が取り組んでいる様々な活動を紹介いたしました。

来年度2018年には介護報酬・診療報酬の同時改定と合わせて、第7次医療計画・第7期介護保険事業計画・第3期医療費適正化計画が実施されます。2017年は2018年を見据えた準備段階として、現在行っている活動を含め本学会が担うべき役割も少なくなく

と思います。会員の皆様の学会・広報委員会へのますますのご意見・ご鞭撻をいただければと思います。本年もどうぞよろしくお願いたします。
(糸田昌隆)

発行人 櫻井 薫

編集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込TSビル (一財)口腔保健協会内

電話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341